

## 第17回町田市市民協働フェスティバル

### 「まちカフェ!」イベント情報

～12月2日(土)市役所開催編～

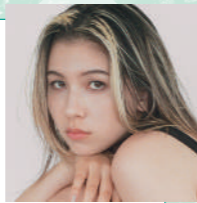
町田市内で活動する市民・地域活動団体が実行委員会を立ち上げ開催するビッグイベント「まちカフェ!」の開催が近づいてきました。12月2日(土)～10日(日)の会期中、市役所会場や市内各地で100を超える催しが開催されます。

ここでは、初日に市役所で開催するオープニングイベントで、事前予約が必要な催しをご紹介します。みなさんのお越しをお待ちしています!

## 町田市役所開催イベント 12.2(土) 10:00-16:00

### セミナー・トークセッション

#### 長谷川ミラさんトークイベント「“じぶんごと”としてのSDGs」



@2階市民協働おうえんルーム 10:30～11:30 [町田市政策経営部広報課]  
ビジネス誌Forbes JAPAN「世界を変える30歳未満」30人に選出され、Z世代のオピニオンリーダーでもある長谷川ミラさんにSDGsや地域活動のはじめの一步についてお話いただけます。

座談会:ベイベーシアターを知る [町田にベイベーシアターを広げる会]

働くを考えるミニ講座 [子どものいる暮らしの中ではたらくを考える/ハローワーク町田マザーズコーナー]

町田の助産師と繋がろう! [東京都助産師会 町田分会]

おはなし会(昔話・文学を肉声で語り伝えるおはなし会) [NPO法人まちだ語り手の会]

### ワークショップ

親子ふれあいイングリッシュタイムのクリスマス特別編 [ベニーズイングリッシュクラブ with 絲子~ito.ko~]

色は心のメッセージ ぬり絵でわたし発見! [色彩心理グリーンハートラボ]

目が見えにくい、見えない方のためのソーシャルダンスとタックマッサージ体験 [NPO法人目と心の健康相談室]

ソーラーツリーを立てよう!～暗れたらソーラーキッチンも♪ [NPO法人まちだ自然エネルギー協議会]

初心者の方も大歓迎! ヨガを楽しみませんか? [グリーンヨガフェスタ町田]

整体体験&ミニブーク作り・販売 [就労移行支援・就労定着支援事業所ハンドシェイク]

### 上映会・演奏会

まちカフェ! 議場コンサートII 国際的タンゴ奏者が織りなす情熱的な不滅の調べ  
@ 議場 10:30～12:00 [オール町田文化芸術プロジェクト]

舞台『オペラ森は生きている』よりミニコンサート  
@ 議場 13:30～15:00 [NPO法人町田演劇鑑賞会]

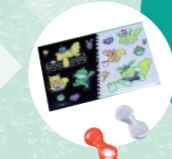
歌子さんのはじめてのコンサート『最高の子守歌』  
@ 町田市民ホール 第3会議室 10:45～11:45 [地域ベイベーシアター実行委員会]

映画『東京クルド』上映会 ～人が人として大切にされる社会をめざして～  
@ 町田市民ホール 第4会議室 14:15～16:40 [アムネスティ町田グループ]

PRESENT 1  
まちカフェ!の  
テーマカラーである  
「緑色」を身につけて  
来場された方に  
記念品をプレゼント!

市役所内  
スタンプラリーも  
あるんだって!

PRESENT 2  
交通安全クイズに  
回答してくれた20代の方に、  
「20代が考えた20代に  
身につけてほしい  
オリジナルの反射材」を  
プレゼント!



### 相談会

当法人のカウンセラーによる  
こころの窓口  
[特定非営利活動法人ここからねっと]

#### 事前予約はこちら!

以下の二次元コードから  
リンクし、イベント詳細ページの  
連絡先からお申し込みください。



一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

info@machida-support.or.jp

042-785-4871 月～金 午前9時から午後6時  
(毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

●JR横浜線町田駅から(徒歩約5分) 小田急線町田駅から(徒歩約8分)  
●お車で越しの場合は近隣の駐車場をご利用ください

相談  
無料  
事前  
予約制

公式SNS 更新中  
www.machida-support.or.jp



町田市地域活動  
サポートオフィス

### Now

まちだづくりサロン特別編講演会を開催しました

### Topics

社会を変える 白書づくりの意義とコツ

### Information

第17回町田市市民協働フェスティバル  
「まちカフェ!」イベント開催情報

講演会当日は、NPO団体や社団法人などで活躍されている方はもちろん、小学校保護者が集まって立ち上げた任意団体や町田内で活動されている方々など、多種多様なテーマで活動されている方々にお越しいただきました。



### Now

近況報告

まちだづくりサロン特別編講演会  
「調べるちから、伝えるちからを身につける  
～「薄書(はくしょ)」でもいいから、  
「白書」を作ろう!～」を開催しました

9月9日(土)、ぽっぽ町田の会議室にて、まちだづくりサロン特別編「調べるちから、伝えるちからを身につける～「薄書(はくしょ\*)」でもいいから、「白書」を作ろう!～」を開催しました。当日は全国各地で地域づくりの講師を務められている、IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人の川北秀人氏にご講演をいただきました。講演会では、白書についての講演、白書を作成するためのミニワーク、白書を作った団体の事例紹介の他、データに基づく町田市の現状の解説など説得力のあるお話をいただきました。

※薄い書のこと



#### 当日お話しいただいた主なテーマ!

- 白書を出す意義
- NPOは「1歩先の視野・半歩先のプログラム」
- ニーズをどう「しらべる」か?
- 2025年の町田
- 「〇〇白書」をデザインしよう!

#### Voice 参加者の声

- 統計や当事者のニーズを把握する必要性等、とても勉強になりました。
- 白書づくりの手法・意義を具体的に解説していただき、さっそく白書を作成していきたい気持ちになりました。
- 自分たちの取り組みの意義を知ってもらうためには、調べることを通し、具体的に伝えられるようになることが近道であるのだと感じました。

次ページで当日の内容の一部をご紹介します。

# 「社会を変える 白書づくりの意義とコツ」

まちづくりサロン  
特別編講演会より

市民活動団体が現場で出合う地域の課題や魅力、資源は、現場で活動する団体だからこそ把握できる情報です。それらの情報を、視野を拡げて集め、掘り下げ、まとめて伝えることで、その分野について知らない人にも、現状や今後を理解してもらい、行動に移してもらうことにつながるからこそ、地域活動団体は薄くてもいいから、「白書」を世に出していく必要があると川北氏は説きます。その最初の一步として毎年発行する年間事業報告書に、4ページでいいので特集を設けてみてはどうかという投げかけをいただいた本講座。ここからは、当日の講演会とワークショップ、質疑応答の一部をご紹介します。

当日の詳細の様子は  
こちらからご覧いただけます



\*白書とは一般的には政府の各省庁が、行政活動の現状や対策・展望などをまとめて伝えるための報告書。本講演会では、取り組む課題の現状や今後の見通し、事例や対策などを調査してまとめた報告書全般を指しています。

PROFILE

川北秀人(かわきた ひでと)

87年に京都大学卒業後、(株)リクルートに入社。広報や国際採用などを担当して91年退社。その後、国際青年交流NGOの日本代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIIHOE設立。市民団体のマネジメントや、企業の社会責任(CSR)への取り組みを支援しながら、NPO・市民団体と行政との協働の基盤作りを進めている。また、地域自治組織の先進地である島根県雲南市の地域自主組織制度を立ち上げ当初から支援するなかから「小規模多機能自治」の推進を提唱。



## あなたは「社会を変えたい」のか、 「社会に良きそうなおことをしたい」だけなのか？

「社会を変えたい」と思っている方に質問したいことは「私たちが待つ人は、どこに、どれだけいるか?」、そして「その人々にいつ、どのように届けるか?」、さらに「私たちはそれを毎朝確認したうえで、今日の活動を始め、終えているか?」ということです。市民活動は、<自分たちがしたいこと>だけをするのではなく、その活動がどういう状況の中で行われていて、次にどういうことをする必要があるのであるのか、あるいは誰に支援を求めるといのかなどを明らかにする必要があります。周囲の人や組織の力も借りて、「てこの原理」で社会を動かすなら、「薄書」でいいから、白書を出す!ことが重要です。

## NPOは「1歩先の視野・半歩先のプログラム」を提供すべき存在

被災地のお手伝いに行ったときに、言うてはいけないことがいくつかあります。その1つが、「お困りごとはありませんか?」です。被災

された方の多くは「大丈夫です」と言うでしょう。ほとんどの被災者は、初めての被災者です。だからこそ、被災地・被災者支援をする団体は、自分たちの経験を活かして「これに困っていませんか?」「これが足りていないのでは?」と聞くのが筋です。活動・事業系のNPOは、「1歩先の視野を持って半歩先のプログラムを提供する」。つまり、困っている方やこれから困るかもしれない方に、「あなたにはこういう選択肢があります」、「こうするととってもうまくいきますよ」という手段をお伝えするのが使命です。

## ニーズをどう「しらべる」か?

「しらべる」というのは「かぞえる」、「くらべる」、「たずねる」、「さがす」の4つで成り立っています。

町内会を例に挙げると、まず「うちの町内会には何世帯が住んでいるか」、「近隣の自治会と比べると子どもや高齢者の比率は?」など、「かぞえる・くらべる」ことが基本です。そして、住民に重要なことや困りごと、できることなどを「たずねる」、そして「よそにはどんな事例があるんだろう」と「さがす」のです。



▲川北氏が参考資料として会場に持ってきてくださった各地のNPOが発行した白書



▲個人ワークの後には、隣の人と共有しました。多様な「〇〇白書」アイデアが出ていました



▲講演会の後半部では、トークセッション形式で、会場から寄せられた質問にご回答いただきました

## 「〇〇白書」をデザインしよう!

### MINI WORK

講演会の中で行われたミニワークでは、参加者一人ひとりが「白書」を作ることを前提にテーマを選び、A3用紙に項目を書き出していきました。ワークに取り組んだ参加者からは、「実際に項目に沿って考えると難しい」、「白書を作成していきたい気持ちになった」という声が上がっていました。

<b>タイトル:〇〇白書</b>	
<b>最も読んでほしい対象者</b>	<b>第1章:状況の概観</b>
1) 県内企業の〇〇担当者	特徴(比較)、状況の推移、どんなデータ?
2) 県・市町村の〇〇担当者	<b>第2章:特集今後数年間の重点課題</b>
3) 県内の〇〇活動者	どんなデータ?
4) 小中学校 〇〇担当教員	<b>第3章:主な問題、原因・背景</b>
5) 〇〇に関心ある学生 など	重点課題の原因・背景
<b>最重要読者に伝えたい項目</b>	<b>第4章:事例</b>
1) 今後求められる課題	工夫のポイントも明記!
他県の水準(統計)	<b>第5章:見通しと対策案</b>
他県の事例	原因&段階別に(短期に…・中期に…)
2) 県内市町村の水準・課題	
3) 現場活動者の問題点	

## 質疑応答より

Q

**福祉白書を作りたいと思っています。調べるためにまずどこから手をつけたいのでしょうか?**

A

今日講義内でお伝えしたデータのほとんどは「国勢調査」からの引用です。行政はたくさんの調査を実施しているので、ぜひウェブで検索してみてください。また、社会福祉協議会が作成する「地域福祉活動計画」に、地域の福祉課題に関する調査結果が掲載されていることもあります。

Q

**小さな活動を少人数でやっている、白書を出す体力がなかなかないのですが、小さな団体でも白書を出す意味をもう一度教えてください。**

A

白書を出す目的は、その課題や活動を、いろんな人に、自分ごととして感じてもらうことです。実際の事例ですが、人口約900人位、高齢化率47%のまちで中学生以上を対象とする全住民調査を実施し、世代別に集計して、中学生など29歳以下の世代限定の報告会を開催したところ、そこから若い人を中心にいろいろな動きが始まりました。これらの動きを可能にしたのは、調査を行ったからです。若者世代がどう考え、どうすれば地域に参加してもらえるかを、調査で明らかにしたのです。

Q

**どう風にして地域活動のモチベーションを維持できるか伺いたいです。**

A

人によってモチベーションの源泉は違うと思いますが、一つの事例としてボランティアについてお話しします。ボランティアを続けてもらうために大切なのは「お礼の言い方」です。継続率の高い団体はお礼の言い方がうまいんです。日当など待遇を改善するより、感謝の方法を工夫する方が有効です。